

2019年9月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

2019年4月26日に開催した第2四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

◆ネットマーケティング事業について

Q1. 電通との協業進捗について

A1. 具体施策として決算説明会資料P17に掲載した「当社から電通グループへナレッジ・テクノロジーの提供」、「GANMA!を中心とした当社メディアの販売」、「電通グループが取り扱うネットマーケティング案件の支援」の3つが一部稼働し始めた状況である。そのため協業による業績貢献の割合は部分的であり、本来想定している規模感としてはまだスタートの段階で、今後本格的な貢献が始まると理解いただきたい。

Q2. 注力領域(ブランド広告、動画広告)の状況、トレンドについて

A2. ブランド広告がオーガニックで伸びており、下期からは電通との協業効果が加算されてくるイメージである。またパフォーマンス型の広告では、主にWeb領域の取扱高が堅調に伸びた。一方で動画広告は横ばいとなつたが、掲載するメディアに大きな変化はなく、動画面以外に予算が流れたという形であり、中長期ではブランド広告と動画広告の伸びのトレンドは変わらないと考えている。

◆メディアコンテンツ事業について

Q3. メディアコンテンツ事業の状況と今後の展望について

A3. メディアコンテンツ事業におけるガイダンスに対する進捗は少しビハインドという状況だが、下期にかけてGANMA!を筆頭に、各メディア事業の投資結果によるトップラインの伸びを期待している。GANMA!はブランド広告及びサブスクリプションの伸びから収益面で厚みを持ち始めており、電通との協業を下期の伸びに繋げていくことが今後の計画である。

◆その他

Q4. アクセルマークの持分法適用除外による当期の業績影響について

A4. 持分法適用除外の結果、連結上の簿価から当時の株価への洗い替えが行われ投資損失が発生した。

一方で、税金費用を期中において見積りで計上しており、期末にてアクセルマークの投資損失を考慮した税金計算を行った場合には、通期で1億円程度の当期利益の減額影響に留まると見込んでいる。

Q5. 追加決算賞与の仕組みと下期にかけての発生について

A5. 追加決算賞与は半期毎に社内で立てている計画を上回った場合に支給する。そのため下期も発生する可能性はあるが、下期の社内予算はガイダンスより高く、追加決算賞与の支給によって業績予想が下振れすることはない認識している。

以上